校訓	真 善 美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年12月3日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を創造する生徒の育成 -認め合う心、確かな学力、健やかな心身を育てる-	「荒中だより」 12月 師走 第17号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

今年もあとひと月

早いもので、今年もあとひと月となりました。暦の上でも大雪(12月7日)を控え、本格的な冬となり、寒さも増してくる頃です。みなさんは、12月のことを師走というのを知っていますか。師走の「師」はお坊さんのことで、年の暮れはお坊さんも走り回るくらい忙しいのが由来だと言われています。いろいろと忙しい12月ですが、この一年を、そして二学期をしっかりと振り返り、まとめを行いましょう。

居心地の良い教室へ

先日、全国の小中学校などが令和６年度に認知した『いじめ』が、前年度から約３万５千件増加し、76万9,022件と過去最高であったことが文部科学省から発表されました。増加の背景としては、いじめの定義の理解やアンケートや教育相談の充実により、初期段階から積極的に認知しているため、早期から組織的な対応がなされていると評価されていますが、中学校では13万件以上もありました。

本校では、今年度10月末から11月にかけて『いじめアンケート』を行いました。すでに解決しているものや解消に向かっているケースもありますが、現在、継続指導中のものは、しっかりと解決に向けて取り組んでいきます。

11月に実施したQ-Uでは、**「クラスの中にいると安心、明るい気分になる」**の項目に肯定的評価(とてもそう思う、少しそう思うの合計)で答えた人は、**63.5%, 78.7%, 75.2%**(数字は１年, ２年, ３年の順)でした。いじめのない居心地の良いクラスにするには、クラスの仲間を認め、それぞれの考え方や性格など、**お互いの存在そのものを尊重しながら関係を築く「人を思いやる心」が必要**です。その気持ちのベースには、**相手の立場や状態を察する力**と同時に、自分の気持ちをしっかりと表現し、**相手にわ**

かるように伝える力が必要となってきます。人は、自分を中心に物事を考えてしまいがちです。しかし、自分の気持ちも相手の気持ちも大事にしながら、仲間とともに充実した毎日を送るために必要な考え方や振る舞い方とはどういうことなのかを、よく考えて学校生活を過ごしてほしいです。そのような考え方ができる人が増えてくれば、**誰もが、教室にいて明るい気持ちになる人がもっと増えてくる**と思います。

もうひとつ**「皆のためになることを自分で見つけて実行している」**の項目は**75.8%,78.0%,82.3%**でした。どの学年も高い数字で、これは荒牧中生の良さを示すものでしたが、特に３年生の数字は素晴らしいと思います。これから、もっともっと周りの人に対して思いやり、心遣いができる人に成長できるといいですね。

宮沢章二さんという方の「行為の意味」という詩に次のような一節があります。

確かに＜心＞はだれにも見えない
けれど＜心づかい＞は見えるのだ
それは　人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の＜思い＞は見えない
けれど＜思いやり＞はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為だから
あたたかい心が　あたたかい行為になり
やさしい思いが　やさしい行為になるとき
＜心＞も＜思い＞も　初めて美しく生きる
それは人が人として生きることだ

宮沢章二「行為の意味ー青春前期のきみたちに」より

正面玄関にタペストリーが飾られています。PTA からみなさんへ学校生活を少しでも楽しんでもらいたいという願い、心づかいです。

優しく気づかい、温かい気持ちになる、そんな教室、学校でありたいものです。